

いしかわまち

発行：社会福祉法人

石川町社会福祉協議会

石川町字松木下88

TEL 0247-26-3793

FAX 0247-57-7003

「地域の支え合い通信」

編集：生活支援コーディネーター

NO.2 発行日：2019.8.1

誰もが 住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け合いの地域づくりを考えていきましょう。

男性陣はゲートボール場も集いの場(南山形のみなさん)

「向こう三軒両隣」 ご近所の絆が大切です。

地域の支え合いについて学びました。

去る6月26日(水)、石川町共同福祉施設にて、「令和元年度石川町地域支え合いづくり研修会」が開催され、各地区の福祉部会委員、石川地区の行政区長、民生児童委員、関係機関等およそ100人が参加しました。

はじめに、「宝物さがしから始まる地域支え合いづくり」と題して、東北福祉大学の高橋誠一先生の講演があり、その後「お互いさまの支え合い・助け合いを増やすために」をテーマに、情報・意見交換が行われました。

高橋先生の講演では、人生100年時代と言われる現代で、いつまでも元気で心豊かに暮らすためには、生涯、誘い合って社会参加できる地域づくりが必要であると話されました。

昔は当たり前に行っ

ていた近所のつながり「向こう三軒両隣」の助け合いが今は希薄となつていきます。近所のお茶飲みやちよつとした手伝い、サロンなど、今やっていることが地域の宝であり、それを続けて行くことが、ご近所の絆、元気な地域に繋がります。意見交換では「身近な支え合い」について、参加者全員で確認し合いました。



高橋先生の講演に多くの方が耳を傾けていました。

元気な地域づくりは宝物の発見から！

「お互いさまの支え合い・助け合いを増やすために」をテーマに情報・意見交換が行われました。参加されたみなさんの声をご覧ください。

～みんなで地域を語る～

「きょういく」(今日行くところがある)、「きょうよう」(今日用事がある)が元気で長生きする秘訣！

《一人暮らしの方から》
外出するときは玄関にハンカチを下げて留守を知らせるなど、自分の存在を知らせることも必要かも。

《長寿会の方から》
・いろんな課題は長寿会に入れば解決される。長寿会がサポートする。
・長寿会の役割として、横のつながり・安否確認をしている。
・ゲートボールの後におしゃべりができる。
・今日の話の内容が長寿会と重なっている。

《ここから・・・》
・今日話を聞いて、近所への声掛けを増やしてお茶飲み会をやってみたいと思った。できそう！
・一人暮らし中心に声掛け合い、見守り。

・自分の地区は声をかけるとほとんど集まる。交流もできる。
・向こう三軒両隣、個々のつながり、自治センターのつながり強化。
・今日話を一人ひとり持ち帰り、地区で話を広げたい。
・男はプライドがあり捨てられない。役割があれば集まりに入りやすい。



《70代の方から》
自分はまだ大丈夫と言われるが、いつまでも元気にいるには、60代、70代から地域のことに参加して多くの人とつながり、体を動かすことが大事。

《現 状》
今は昔のように向こう三軒両隣の関係は減っており、生活も多様化している。

《地域の課題》
・男の人は飲みには集まるが、その機会も少なくなり、それが課題。場所の提供も必要。
・隣組に入らない。高齢化で役員が受けられない。繋がりがなくなりバラバラになる。

《これがお宝!!!》
・近くにお茶飲み場がある。
・雪かぎの手助けや何人か集まって散歩したり、話をしたりしている。

・女性は外に出ていくことが好きだが、男性は出てこない(なんで?)
・出てこない人をどうやって誘うか。出たがらない人みんなを誘うのは大変。



各地区の福祉部会の活動の様子

昨年から福祉部会に生活支援コーディネーター（支援員）が配置され、支え合い、助け合いの地域づくりが始まりました。今年の活動予定は以下のとおりです。

中谷

は昔ながらの「向こう三軒両隣」

を思い起こし、地域の「互助」を行っていきけるようになったらいいなと思います。

昨年は「地域の福祉」の必要性を身近に感じてもらうことを念頭に活動してきましたが、今年は福祉部会の活動を地域に発信し、地域とのつながりを支援していきたいと思います。



「向こう三軒両隣の絆を深める活動を」今年の福祉部会は、地域の支え合いの「仕組みづくり」と「きっかけづくり」を行いながら、いずれ

山橋

元気なうちから困った時に「助けて！」と言える関係づくりを

山橋福祉部会では、75歳以上の一人暮らしの方に、「困りごと調査」を実施しました。半数の方は「今のところ困っていない」と回答していましたが、残りの方は、「草刈り」、「雪かき」、「買い物」、「ゴミ出し」、「話し相手」、「移動手段」などを心配ごととして回答していました。

その結果を踏まえ、元気なうちから困った時に「助けて！」と言える良い関係を築いておくことが大事であると思っています。

誰もが住み慣れた山橋で、最後までいきいきと心豊かに暮らせるために、地域の支え合いづくりの意義や必要性について深めていけるよう支援していきたいと思っています。

母畑

「一人暮らし高齢者の声を聞き、支援の実施へ」

第1回母畑福祉部会は4月18日（木）母畑自治センターで

開催しました。役員改選、平成30年度の活動報告と改善点を話し合い、今年度の活動計画を以下の通り取り組むことが決定しました。

【今年度の活動計画】

- ① デマンド交通の実証実験運行の取り組み参加協力
- ② 一人暮らしの要望アンケート調査
- ③ アンケート調査の個別対応



沢田

「支え合いの地域づくりを目指して」

沢田地区では、「お話を聴いてもらいたい」というニーズが高いことから、昨年度から「傾聴ボランティア活動」に取り組んでいます。人は気持ちが悪くない時、元気が無くなりそうな時など、誰かに話を聴いてもらうことで心が軽くなり元気になることでもあります。訪問回数を重ねるごとに、高齢者の方々の信頼関係も深まり、困りごとやどんな支援が必要なのかも見えてくるのではと思います。見えてきた段階で福祉部会を中心に、支え合いの仕組みを作っていきたいと考えています。



ボランティアによる傾聴訪問の様子

今年度から野木沢地区自治協議会の活動が具体的にスタートし、第一回目の福祉部会が7月2日に開催されました。

部会の構成団体は民生児童委員、のぎさわの会（ボランティア）代表、更生保護女性会、人権擁護委員、心配ごと相談員などで構成されています。部長には民生児童委員方部長である鈴木長治氏が就任されました。



【野木沢地区】
生活支援
コーディネーター
長谷川信光

今年、平成最後の年であり、最後の月である4月から野木沢自治センターで事務員として勤めさせて頂いております。その後、令和となりセンター事業が毎日のように実施され、忙しい時間が過ぎていております。

今後とも地域のつながりを大事に勤めていきたいと思います。



7月2日に行われた第1回福祉部会の様子

標を立て、野木沢のこれから、5年後10年後をイメージしたデザインづくりを行う予定です。第2回の会議はワークショップを行い、各々が抱える問題（課題）について意見を出し合い、その課題について自治協議会全体で協議し、今後の会の運営にあたっていく方向です。

これからの野木沢の未来が託された大事な事業となりますので、慎重に事業展開を図っていきたくところであります。

地域のお宝をご紹介します！！

地域のお茶飲み、サロンなどのつどいの場や隣近所の何げない助け合いの活動を『お宝』と呼んでいます。

お宝①

荒町の重謙屋敷サロンに行ってきました。このサロンは第2金曜日の午後1時30分から行っています。訪れた日は、近くの高校生も声をかけられて一緒に脳トレに挑戦していました。



みなさんの地区にはどんな「お宝」がありますか？

お宝②

山橋のJA夢みなみサロンに行ってきました。普段は10人位来ていてお茶飲みをしていくそうです。月1回開催している生き生きクラブには30名以上が集まりにぎやかに交流しています。

